



## 伊東 信宏 教授

文学研究科・文学部  
音楽学

私が「留学」といえるような経験をしたのは、もう30歳になって、大学院もほぼ終えてからのことでした。ですので、この文章を読む方にどれほどお役に立つか、わからないのですが、私にとっても思い出深い時代ですので、ここに少し書き留めておきたいと思います。

行ったのは1992年の春頃から翌年の夏前までの1年と少し。行き先はハンガリーのブダペストでした。当時のブダペストは、社会主義体制から転換したばかりで、まだ貧しく、混乱していました。街の建物は概してくすんだ色。留学先の1つだった、リスト音楽院など、その頃は真っ黒な建物でしたが、数年後に洗浄されてみると思いのほか明るい色があらわれて、驚きました。今と比べて一番変わったのは、電話の事情でしょうか。電話は、もちろん今のように携帯やスカイプでOKなどというわけにいかず、日本に電話するときには公衆電話からかけます。それもどの公衆電話でも良いというわけではなく、国際電話がかけられるものを探さねばなりません。さらに、その国際電話がかけられる公衆電話も、やっと見つけても3台に2台くらいは壊れています。いつも下宿の近くにあるホテルのロビーにある電話からかけていましたが、50フォリント硬貨（当時のレートで100円くらいだったか？）をいっぱい握りしめて電話すると、たちまち硬貨が足りなくなって、5分も話せば良い方でした。

言葉は、研究機関の中ではドイツ語や英語でほぼなんとかなるので、とりあえずはどうかこうにかやりましたが、街ではハンガリー語しか通じず、最初に困ったのは買い物でした。ハンガリー語は、一応自分でも勉強し、日本で隣の講座（演劇学）のハンガリー人留學生に習ったりもしていたのですが、語学の才能がないので現地ではほとんど使い物にならず、一からやり直しという状況でした。八百屋さんで野菜でも買おうと思って、その野菜自体の名前まではわかるとしても、どうも値札を見てもいくらなのかよくわからない。買って払ってからも、まだあの値札に書いてある数字と、自分が払った金額とが一体どういう関係にあるのかがわからない。一

個いくら、と書いてあるのか、グラム単位の値段なのか、まさかキロ単位ではないだろう、としばらく悩んでいましたが、しばらくたってようやく判明したのは、それは「デカグラム」単位の値段だ、ということでした。「デカグラム」？つまり10グラム単位で値段が書いてあるわけですが、生活に慣れるまでは、そういう些事の一つ一つが大冒険でした。

当時のハンガリーに留学してよかったな、と思うのは、戦後日本と全く別の考え方をする人たちと直接触れあえたことです。ある時、ハンガリー人の友人と何かの映画の話をしていて、「ああ、でもあれは商業映画だから」と言われて驚いたことを覚えています。その映画が商業映画ではない、と考えていたので驚いたわけではありません。それが商業映画であることはもちろんですが、そもそも商業映画ではない映画（たとえば「芸術映画」というようなもの？）があるということはこの国の人は信じているのだ、と知って驚いたのです。当時の私は、戦後高度成長期の申し子であり、バブルの真っ只中の日本から出てきたばかりだったので、市場経済というものに染め上げられていて、それ以外の世界があるということを想像出来なくなっていました。世界は市場価値、すなわち「お金」に埋め尽くされていて、高尚な芸術だろうと奇妙な研究であろうと、結局のところはお金に還元され、絡めとられている。それが当たり前と思っていた私は、それとは違う可能性を信じている人と出会ってとても新鮮に感じました。私は結局今でも「東欧」の音楽を研究対象にしていますが、こういう驚きが忘れられないからだと思っています。

ウルグアイのムヒカ元大統領は「人生のすべてを資本主義にゆだねてはいけません」と語ったそうです。この言葉を読んだ時にも、私は自分の留学経験を思い出しました。この日本という社会にいて、自分が何か語るべきことを持っているとするれば、それは結局ああいう留学体験をさせてもらったことに端を発しているのだ、と思わざるを得ないのです。

## 文学研究科・文学部 国際連携室

国際連携室では、年間を通じて様々な行事や企画を実施しています。留学生だけでなく、文学研究科・文学部の学生を対象としたプログラムもあります。2016年度には以下の行事を実施しました。(\*は留学生のみ対象)

### ■ 部局間協定校 派遣学生募集

文学研究科・文学部協定校へ交換留学する学生の募集です。

留学開始時期に応じて、一年に2回募集します。

2015年度 追加募集 ①2月1日(月)～2月26日(金)、②4月8日(金)～4月18日(月)

2016年度 本募集 8月17日(水)～9月5日(月)

2016年度 追加募集 ①2月1日(水)～2月24日(金)、②4月10日(月)～4月21日(金)

### ■ タンデム学習プログラム

留学生と日本人学生のペアでお互いの言語や文化を学びます。

前期と後期にそれぞれのプログラムがスタートします。

前期スケジュール 参加者募集 4月6日(水)から4月20日(水)

親睦パーティー 6月17日(金)

後期スケジュール 参加者募集 10月3日(月)から10月18日(火)

親睦パーティー 12月16日(金)

※プログラムの詳細についてはFacebook、HPをご覧ください。

Facebook <https://www.facebook.com/OsakaUTandem>

HP <http://www.let.osaka-u.ac.jp/kokuren/tandem/index.html>



▲ランチタイム交流会

### ■ 新入留学生オリエンテーション\*

新入留学生を対象としたオリエンテーションです。  
4月4日(月) 博士後期課程1名、博士前期課程2名、研究生17名(研究科2名、学部15名)、  
特別聴講学生7名(学部7名)、特別研究学生2名(研究科2名)

10月3日(月) 特別聴講学生6名(Erasmus Mundus Euroculture 留学生6名)

10月4日(火) 研究生7名(研究科1名、学部6名)、特別聴講学生15名(研究科3名、学部12名)

それぞれの開催日に参加できなかった新入生には、後日個別説明を行いました。

### ■ チューター説明会

初めて留学生チューターを担当する学生を対象とした説明会です。  
前期は4月20日(水)、後期は10月14日(金)に開催。当日出席できない担当者には個別に説明しました。

### ■ 英語研修プログラムの募集案内

大阪大学で実施されている語学研修です。

プログラム名	募集時期	プログラム名	募集時期
エッセックス大学 夏季語学研修プログラム	4月上旬から4月下旬	マヒドン大学 短期訪問プログラム	5月下旬から6月上旬
グローニンゲン大学 短期訪問プログラム	4月中旬から5月上旬	モナシュ大学 春季語学研修プログラム	10月中旬から11月上旬

### ■ 留学説明会

5月12日(木) 文学研究科・文学部学生を対象とした説明会です。  
学内選考や留学先大学への申請手続やスケジュール、奨学金についての説明の後、交換留学経験者の体験談を聞き、渡航準備や現地での生活だけでなく、帰国後の就学や就職活動などについての質問にも答えていただきました。

### ■ 「ゆめ基金」応募者募集

交換留学制度を利用する文学部学生を対象とした奨学金です。  
2013年からスタートしました。6月30日(木)、2月24日(金)を選考基準日として募集し、選考のうえ採用者を決定しました。

### ■ ISAP (Internationalen Studien- und Ausbildungspartnerschaft)

特別講演 10月13日(木) Judit Árokay教授(ハイデルベルク大学)に「デジタル文学地図の試み」と題して日本語でご講演いただきました。

▼きもの教室



■ **ランチタイム交流会** 4月15日(金)、10月12日(水)  
軽食を摂りながら、学生、教職員が学期初めのお昼のひとときを一緒に過ごしました。

■ **浴衣教室** 7月1日(金) & **着物教室** 12月8日(木)  
参加者の好みに応じて一着を選んで着付けていただき、思い思いのポーズで写真に納まりました。

今年度の実施案内はHPやFacebook、ポスターなどでご確認ください。留学プログラムや留学派遣学生の募集情報はHPやFacebook、KOANを通じて案内します。

## 学生派遣・受入れのデータ

### ● 留学派遣 (2017年2月1日付、休学事由「留学」を含む)

・研究科 22名

在籍学年		渡航先			
後期3年	10	フランス	4	ドイツ、イギリス	各2
後期2年	1	中国	6		
後期1年	4	アメリカ、イタリア、オーストラリア、オランダ、スペイン、チェコ、ハンガリー、ベトナム			各1
前期2年	6				
修士2年	1				

・学部 17名

在籍学年		渡航先			
学部4年	7	ドイツ	4	アメリカ、カナダ	各3
学部3年	9				
学部2年	1				
		イギリス、インドネシア、オーストラリア、チェコ、フィリピン、フランス、台湾			各1

### ● 語学研修等 (2017年2月1日付、大学主催の研修参加者)

研修名等	研究科	学部	研修名等	研究科	学部
モナシュ	1	1	GLOCOL	-	-
エセックス	-	-	CampusFrance	1	-
グローニンゲン	-	3	その他	-	1

### ● 留学生受入れ (2017年2月1日付、OUSSEP・Maple参加者は除く。)

研究科		学部		出身国・地域			
博士後期課程3年	15	4年	6	中国	57	ロシア	5
博士後期課程2年	10	3年	7	韓国	36	ドイツ	4
博士後期課程1年	4	2年	4	台湾	19	アメリカ	3
博士前期課程2年	15	1年	9	イギリス、イラン、インド、オーストラリア、スウェーデン、ブルガリア、リトアニア			各2
博士前期課程1年	24	研究生	21	アルゼンチン、イタリア、エジプト、オランダ、シンガポール、スペイン、タイ、デンマーク、ニュージーランド、ノルウェー、ベラルーシ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、香港、メキシコ			各1
修士課程2年	1	特別聴講学生	16				
修士課程1年	1						
研究生	8						
特別研究学生	2						
特別聴講学生	9						

## ● 在籍専門分野・コース、専修

研究科						学部			
	博士 後期	博士前期 ・修士	研究生	特別研究 学生	特別聴講 学生		学部	研究生	特別聴講 学生
哲学哲学史				1		哲学・思想文化学			
現代思想文化学		2				倫理学	2		
臨床哲学		2				インド哲学			1
日本史学	1	3				日本史学	1		
東洋史学		4	1			東洋史学		2	
考古学	2					考古学			
日本学	4	2				日本学	6	1	1
人文地理学		2				人文地理学			
日本語学	10	11			1	日本語学	2	5	5
日本文学	3	7	3			日本文学		2	6
国語学	2	2	2			国語学		3	1
比較文学	2	2				比較文学			
中国文学	1			1		中国文学	2	1	
英米文学						英米文学・英語学	1		
美学	1	2				美学	2		1
音楽学			1		1	音楽学 ・演劇学	1		
演劇学	2		1						
美術史学	1	2				美術史学		2	1
共生文明論						言語生態論		1	
アート・ メディア論	-	2				アート・ メディア論		2	
文学環境論	-				1	文学環境論		2	
その他					6	未配属	9		
	29	41	8	2	9		26	21	16



▲エラスムスドゥッス ユーロカルチャー 送別会



▲タンデム学習プログラム 親睦パーティー



## 留学体験記

### 異文化の中の生活を通して

英米文学・英語学専修 4年 村井陽太  
モナッシュ大学春季語学研修プログラム（派遣時 学部3年）

今年の春、2月から3月の間の1か月は自分の中で驚くほどの速さで進んでいきました。出発前に異言語の中で暮らすことに対する恐怖を抱いていたことや、最初に異国の文化に慣れることができずに「早く日本に帰りたい」と思っていた私が、終わった時には「本当にあっという間の1か月だった」と、オーストラリアの地を離れることに悲しさを覚えるほどに、大きな経験をしたのだと感じました。

私が何よりも印象に残ったのは、日本とオーストラリアの文化の違いの大きさでした。例えば、オーストラリアは雨の少ない気候であるため、日本よりもはるかに水を大事にしています。そのため、シャワーは長くても5分しか浴びることができません。他にも、日本ではバスや電車が時間通りに来ることは当たり前のように感じられますが、オーストラリアでは到着予定時刻の5分前にはバスがもう通過していた、ということが頻繁にありました。日本との違いを感じた事柄をこのように一つ一つあげていくときりがありません。本やテレビで見たり聞いたりする以上に、文化の違いは大きいのです。

そのような環境に適応するためには、自ら他文化を理解しよう、適応しよう、という積極的な姿勢が大切だということに気づきました。留学した最初の時期は、ただただ文化の違いに驚くばかりで、受け

身の姿勢で生活していましたが、その違いを受け入れることができませんでした。ですが、これではいけないと思い、疑問に感じたことや、どうすればいいか困ったときは積極的にホストマザーや現地の人に質問するようにしました。そうしていくうちに、文化の違いを徐々に受け入れられるようになり、またその違いを楽しむことができるようになっていきました。

このようなことは日本であっても、例えば人と普段話すときであつても、大切な姿勢ではないでしょうか。「留学」という言葉を聞くと、皆さんがまず思い浮かべるのは「語学力の上達」であると思います。しかし、留学ではそれだけではなく、一人の人間として成長させてくれるものでもあるのです。



▲Yarra Riverの上にて

### 「イギリス×考古学」

考古学専修 4年 平井洸史  
マンチェスター大学（部局間派遣、派遣時 学部4年）

こんにちは。文学部4年の平井洸史です。11か月ほどイギリスのマンチェスター大学に留学し、主に考古学を学んでいました。イギリスで考古学と聞くと何を思い浮かべますか？ きっと皆さんの頭の中では巨石が環状にならんでいる姿が、、、そう、ストーンヘンジがとても有名ですね。私もこのストー

ンヘンジをはじめとする新石器時代のモニュメントに興味があつて、イギリスを留学先としたわけです。留学中も休暇を使って遺跡や博物館に行き、満ち足りた気分になったりしていました。ただ、旅行でもできることは脇に置いて、留学だからこそ経験できること、特に授業とフィールドワークについてご紹介

介したいと思います。

授業については、大阪大学とはかなり異なります。当たり前ですが、一番違うのは言語。これには結局、最後まで苦しめられました。授業中理解できないところがあると、自信を持って意見ができない。そんな負の連鎖に陥り、留学前に英語を勉強していなかった自分の行いを悔いました。

授業で楽しいこともたくさんありました。例えば、積極的に議論に参加できるようになった時、そのとき味わった充実感は今でも覚えています。また、マンチェスター大学には世界各地を調査フィールドとしている考古学者がいます。まったく知らなかった地域の考古学を、そのスペシャリストから学ぶことができるのは刺激的で、自分の興味を持つ分野が3、4倍に増えました。これこそが、世界の考古学があつまるイギリスで学ぶ利点なのかもしれません。

フィールドワークは、留学先で知り合った先生にお願いして、発掘調査に参加させてもらいました。もちろん、イギリスでの発掘調査から（ここには書ききれないくらい）多くのことを学んだわけですが、なによりも、朝、羊の鳴き声で起き、昼は牧場のど真ん中で発掘し、夜は仲間とキャンプファイアーを

囲んで飲むといった生活が今となっては懐かしくてもたまりません。‘I had the time of my life’そんな言葉がぴったりの経験ができたのは、マンチェスター大学に留学したからこそだと思います。

これを読んでいる人の中には留学をしようか悩んでいる人もいることでしょう。そしてその目的も多様だと思います。しかし、どのような目的であれ、留学は人に変化を与えます。私の場合それは間違いなく良い変化でした。このことが、私が留学するか悩んでいるかたに強く留学を薦める理由です。

あなたも留学を通して「人生最良の時」と思えるような経験をしたくないですか？



▲ドーストーンヒルでの発掘の様子

## 留学を振り返って

英米文学・英語学専修 4年 小林加奈  
アメリカ合衆国 カリフォルニア大学アーバイン校 (大学間派遣、派遣時 学部4年)

小さいころから海外文学を読むのが好きだったこともあり、高校生の頃から漠然と留学に対する憧れを持っていました。私の場合、卒業を一年延ばして学部四年で留学することとなったため少し迷ったのですが、このような機会は今後なかなかないだろうと考え、留学を決めました。留学を終えた今、この時に思い切って決心して良かったと思っています。

留学して初めの学期は、予想以上の課題（読書）量と、活発な議論に圧倒され、思うような成績が取れませんでした。学期末に留学先のアドバイザーに呼び出されたときは本当にひやひやしたのですが、彼女はうまくいかなかったことの原因と解決策と一緒に考えてくれ、励ましてくれました。このように大学には様々な面で学生をサポートする体制が整っていました。自分が何かアクションを起こせば手助けしてくれるのだということが分かり、次の学期か

らは成績も持ち直しました。



▲春休みのボランティアプログラムにて

アメリカに留学してよかったことの一つは、自分とは異なるバックグラウンドや考え方をを持った学生とのかかわりの中で、今まで考えたこともなかった視点に気づかされる体験ができたことです。英語力

の面では、課題量が多いので自然とリーディング・ライティングの練習になりましたし、リスニング・スピーキングの面では、とにかく分かるまでしつこく聞く・話すという姿勢が身についたように思います。

留学を考えると、様々な不安も浮かんできます。しかし、留学先ではこちらから一歩踏み出せば相手も応えてサポートしてくれます。私の場合、阪大か

ら紹介された奨学金で金銭面の不安もかなり解消されました。

私が本格的に留学を考えるきっかけになったのは、私と同じように4年次に留学する先輩の話聞いたことでした。私の体験記がそんな風に迷っている方の一助になれば幸いです。

## Great Expectations

特別聴講学生 文化環境論 Paulsen Elena Alexandra  
交換留学生 (ドイツ ハイデルベルク大学)



▲On-campus

When the second opportunity for me to study abroad in Japan came up, I was adamant that it take place in Osaka. My reasons were threefold: first, during my previous study abroad experience when I had a chance to visit Osaka for a weekend, it made a lasting impression on me. The city itself seemed exciting and beautiful; furthermore, it turned out that all the stereotypes were true, and Kansai people really were incredibly friendly and laid-back. Second, I had a friend who had studied abroad in Osaka and she recommended it to me highly, saying that she couldn't have hoped for a better experience. The third reason is that Osaka is famous for *okonomiyaki*, and I love *okonomiyaki*.

Fortunately, my hopes were realized and this time, I'm in Osaka for a year. All in all, it's even more beautiful and exciting than I'd imagined. The area I live in gives me a great view of the hills changing colour as the seasons change, and every weekend there are things to do in Umeda, or even in Dotonbori if I'm up to the trek. If I get the time, I'd like to travel around to

visit friends in Kyoto, Kanazawa, and Shikoku as well.

That's not to say that study abroad is all sunshine and roses, however. I've moved countries fairly often in my life, or at least more often than average, and even after all this time there's still things that are difficult. The abrupt change in diet is hard on your body. Bedding is different from country to country, which may sound inconsequential, but doesn't feel that way once it's taken you weeks to get a solid night's sleep. Most of all, the language barrier can be genuinely frustrating at times. What makes the difference is that at Osaka University there are plenty of instruments in place to help foreign exchange students overcome that hurdle. From logistical aspects such as finding an apartment - I myself received a ton of help from Handai's MyRoom office, where they did everything, including driving me to promising apartments, calling the utilities, and drafting up a contract - to setting you up with conversation ("tandem") partners, to providing tutoring services for study abroad students, Osaka University is here to help. As a Master's course student, I was even given access to the Literature and Environment Department, together with the associated resources. Moving to a new country can be scary, but it helps to know you're not doing it without help.

## 教員派遣・受入れのデータ

### ● 教員海外出張・研修 (2017年2月1日付、届出のあったもの)

・海外出張 延べ105名、116件

韓国	14	アメリカ、ドイツ	各8	インド、オーストラリア、スウェーデン、タイ、ベトナム	各3	カナダ、ギリシャ、シンガポール、スロベニア、デンマーク、トルコ、ペルー、ベルギー、ポーランド、マカオ	各1
中国	11	オーストラリア	6				
フランス	10	イタリア	5	オランダ、スイス、スペイン、フィリピン、ポルトガル、香港	各2		
イギリス	9	台湾、チェコ	各4				

・海外研修 延べ13名、13件

韓国、台湾、中国	各2	イギリス、オーストラリア、オランダ、シンガポール、スウェーデン、ドイツ、フランス	各1
----------	----	--	----

### ● 外国人招へい研究員の受入れ (2016年4月から2017年3月)

- 楊 理論 (Yang Lilun) 中国 2015年8月20日～2016年8月19日  
日本の詩話における宋代詩学の受容に関する研究 (浅見洋二教授受入れ)
- 駱 曉倩 (Luo Xiaoqian) 中国 2015年8月20日～2016年8月19日  
日本伝存資料による宋代文学に関する研究 (浅見洋二教授受入れ)
- 柴谷 方良 (Shibatani Masayoshi) 日本 2015年4月24日～2017年3月31日  
準体法研究を中心とした機能文法理論の新展開 (鄭聖汝講師受入れ)
- 朴 美賢 (Park Mihyun) 韓国 2015年10月1日～2016年8月31日  
日本書紀関連文献における韓国系固有名詞のアクセントの研究 (岡島昭浩教授受入れ)
- 範 玉梅 (Fan Yumei) 中国 2015年9月1日～2016年8月31日  
日本語教育研究における質的アプローチについての研究 (青木直子教授受入れ)
- Merida Tarik ドイツ、フランス 2015年11月1日～2016年4月30日  
20世紀転換期における在米日本人移民の人種アイデンティティ形成に関する研究 (中野耕太郎教授受入れ)
- Mocci Nicola イタリア 2016年2月13日～2016年4月14日  
東南アジア史における西洋普遍史の需要に関する研究 (竹中亨教授受入れ)
- 石 玉芳 (Seki Gyoku Ho) 中国 2016年2月15日～2016年8月15日  
樋口一葉及びその作品に関する研究 (出原隆俊教授受入れ)
- 鄒 東凜 (Zou Donglin) 中国 2016年6月20日～2016年12月20日  
永井荷風文学に関する研究 (出原隆俊教授受入れ)
- Hans Martin Krämer ドイツ 2016年5月14日～2016年5月28日  
1920、30年代の東京帝国大学セツルメントについて歴史的研究 (浜渦辰二教授受入れ)
- 巴雅尔都楞 (Bayaerduleng) 中国 2016年4月1日～2017年3月31日  
日本語とモンゴル語の指示詞の対照研究 (金水敏教授受入れ)
- 劉 潔 (Liu Jie) 中国 2016年7月10日～2016年10月15日  
奈良・平安朝初期に伝来した唐詩佚文研究—『千載佳句』所収唐詩佚文を中心として (浅見洋二教授受入れ)
- Tong Koon Fung シンガポール 2016年6月1日～2016年12月31日  
「音楽を通して分かる老後生活—高齢文化の一環としての演歌—」に関する調査 (輪島裕介准教授受入れ)
- 袁 葉 (Yuan Ye) 中国 2016年10月1日～2017年3月31日  
俗語の魅惑：江戸時代における日本作者の中国白話文学作品 (飯倉洋一教授受入れ)
- 呉 水田 (Wu Shuitian) 中国 2016年9月15日～2017年9月14日  
広東水上居民“蛋民”の社会文化地理学的研究 (片山剛教授受入れ)
- Jan Sykora チェコ 2017年1月16日～2017年7月15日  
明治末期・大正期における消費社会の成り立ち及びその変遷 (飯塚一幸教授受入れ)
- 黄 小珠 (Huang Xiaozhu) 中国  
2015年9月1日～2016年8月31日、2016年10月9日～2017年10月8日  
五山文学における蘇軾詩の受容に関する研究 (浅見洋二教授受入れ)
- 張 麗静 (Zhang Lijing) 中国 2016年10月1日～2018年3月31日  
谷崎潤一郎を中心とした大正期日本人作家の中国表象の研究 (斎藤理生准教授受入れ)
- Rebekah Alexander 英国 2017年2月1日～2018年1月31日  
持続可能な開発、及び移民と人口統計の環境へのインパクトに関する研究 (宇野田尚哉准教授受入れ)

国際連携室 Facebook  
<https://www.facebook.com/IROGSLOU>



編集・発行 文学部・文学研究科 国際連携室  
 伊東信宏・丁愛美・内田多鶴  
 発行日 2017年3月31日  
 〒560-8532 豊中市待兼山町1-5